「女性視点の防災ブック」編集・検討委員会

（第６回）

議　事　録

平成29年10月30日（月）

第一本庁舎９階Ｂ会議室

午前９時30分開会

○池上委員長　皆様おはようございます。始めさせていただきます。もう第６回になるのですね。「女性視点の防災ブック編集・検討委員会」を開始いたします。

委員会を進めるに当たって、諸注意を申し上げます。

本会は非公開で実施いたします。それから、資料につきましても非公開とさせていただきますので、情報管理をよろしくお願いいたします。ただし、資料と議事録については後日公開される予定ですので、その点御注意ください。

なお、この委員会は女性視点の防災ブック編集に関して助言を行うもので、いただいた御意見全てを反映できるものではないということも御承知おきください。

早速、次第の「２　議事」に入らせていただきます。まずは原稿について御確認いただきたいと思います。

それでは、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局　本日は、第１章につきまして、イラストを入れた原稿案を委員の皆様に御確認いただきたいと思います。

まず、A4縦の資料１をごらんください。この本の掲載項目の一覧表になります。資料の見方ですけれども、左に数字がございますが、こちらはページ番号だと思っていただければと思います。お手元にございます原稿の左上にも同じ番号を振っておりますので、御確認をお願いいたします。

また、番号のすぐ右の欄に書いてある、例えば「出かけるときの防災」や「寝るときにできる防災」が大項目になります。

その右に書いてありますのが、それぞれの大項目の中の掲載内容となります。

上のほうをごらんいただきたいのですが、本の構成ですけれども、まず導入文がありまして、その次に目次、巻頭企画、そして１章、２章、３章という構成になっております。

本日は、導入文と巻頭企画、また１章の原稿につきまして皆様に御確認をお願いしたいと思います。

進め方ですけれども、この後、少しお時間をとって委員の皆様に原稿案を読んでいただきたいと思います。御指摘の内容などがありましたら、赤字でメモ書きをしていただければと思います。

また、メモ書きの入った原稿を事務局のほうで回収させていただいて、事務局のほうから皆さんに御質問等させていただきたいと思います。

今、お配りしております「原稿の確認方法」という資料をごらんいただきたいのですけれども、御確認いただきたい視点について御説明します。

文章につきましては、第４回の委員会で既に御意見をいただきましたので、今回、イラストを中心に御確認をお願いしたいと思います。

その際の注意点ですけれども、イラストにつきましては、どうしても好き嫌いとかかわいいかわいくないとか、皆さんいろいろ御感想をお持ちになるかと思います。ただ、今回

御確認いただきたいのは、そういったデザイン面の評価ではございません。デザイン面の評価になりますと、どうしても主観によってしまうところがございますので、本日は、イラストが本文の内容（防災対策）をきちんと伝えるものとなっているかという点について御確認をお願いしたいと思います。

２の具体的な記載方法ですけれども、こちらも前回同様に、気になった箇所に指摘内容を赤字でメモ書きをお願いできればと思います。その際、御指摘の内容とか趣旨が、原稿を回収した我々事務局のほうで確認できるように、また、どのように修正、追加したらよいかわかるように、なるべく具体的に記載をしていただければと思います。

今、お配りしております「原稿赤字記入例」をごらんいただければと思います。例をお示ししています。コメントや注釈等につきましても、内容をきちんと伝える上で必要であれば、例示のように「背の低い家具を選ぶ」というように、なるべく具体的に追加、修正の御指示をいただければと思います。

また、左のページにありますように、イラストの追加が必要な場合も、なるべく具体的な記載をお願いできればと思います。

１枚おめくりいただきまして、こちらはイラストの変更の場合の例です。左のページがイラストを強調する必要がある場合です。こういった場合も、ごらんのように記載をして御指摘をいただければと思います。

以上、原稿確認の方法について御説明しました。

次に今、お手元にございます「原稿案」、A4横のカラーの資料をごらんください。事務局のコピーをしていますので、実際の色合いとは少し違いますので御了承ください。

イラストについて御説明をしておきます。１枚おめくりください。これは「出かけるときの防災」のページになります。こちらはハラユキさんというイラストレーターの方に、１こまのイラストを書いていただいております。第２回の委員会でも、コミックエッセイのような絵を挟むと読んでもらいやすいといった御意見がございました。こういった御意見を踏まえまして、導入の部分で読者の気持ちをつかむためのイラストを掲載しております。

４枚おめくりいただきまして、左上に１－２－１とあります。こちらの「寝るときにできる防災」にも同様にイラストを載せております。なお、ハラユキさんには原稿を読んでいただいた上でイラストを描いていただいています。何か誤解を招いたり、不適切な内容など、どうしても気になることがあれば御指摘をいただければと思います。

１枚おめくりいただきまして、それ以外のページでは「東京防災」と同じ岡村優太さんというイラストレーターに描いていただいております。先ほど御説明しましたように、イラストの確認をお願いいたします。

なお、ともに、まだラフ絵段階のものも中にはございますので、その点、御了承いただければと思います。今、ごらんいただいている１－２－１の「寝るときにできる防災」のイラストも、まだラフ絵の段階です。

以上、イラストについて御説明をいたしました。

先ほど御説明いたしましたように、御指摘のメモを書いていただいて、その原稿は事務局のほうで取りまとめをいたします。御確認が終わった原稿は横に置いていただければ、随時控えている事務局職員が回収いたします。原稿は事務局でコピーをして、各委員にお返しいたします。また、コピーは他の委員にはお配りいたしません。これは前回と同じやり方でございます。おおむね10時15分まで御確認をしていただいて、その後、休憩を挟んで、また事務局のほうから委員会の場で皆様に御質問等させていただければと思います。

もし、まだお時間がかかるようでしたら、そこは随時延長するなり、対応したいと思います。

○池上委員長　今から10時25分まで、大体40分間確認していただいて、いつものようにチェックしたところで置いておいてくだされば、集めてくださるということですね。

それでは、よろしくお願いいたします。

（休　　憩）

○事務局　ありがとうございました。基本的にはイラストのところでございますので、皆様からいただいたものをなるべく反映するようにしたいと思います。

幾つか御確認したほうがいいのですけれども、皆さんお手元に資料は返ってきていますでしょうか。

まず、１章の１－１－２のあたり、あるいは右の絵とか、左上のロッカーの話といったものは注釈をいろいろつけているのですけれども、基本的には、なるべく注釈をつけるようにはしたいと思っています。いただいた御意見全部というわけにはいかないのですけれども、例えば左の上のものでロッカーが倒れて、まずロッカーに見えないというものもありましたし、これは手前に倒れてくるので、ドアを塞ぐようには見えないという御意見もいただいております。

あと、右の絵では、冨川さんからは、建物内に入ったほうがいいのではないかということを書いたらどうかということをいただいておりますので、この辺はまた事務局のほうで工夫をして、あとは、もう少し引用の線を伸ばしてちゃんとつながっているほうがいいのではないかといった御意見をいただいていますので、そちらについては反映していきたいと思っています。

○池上委員長　その場合、建物内残留ビルに指定されているとわかっていれば、確実にビルに入れますが、やたらに入って無事かというと、そうでないものもあるということがあって、文章で書くのは結構難しいものがある。

○冨川委員　このイラストだと、すごく路地感がすごいので、場合によっては対策を書かないと、すごく危ないだけになってしまうと思いました。

○事務局　わかりました。

○池上委員長　それで左に古いビルや木造と書いてありますから、こういうところは入ってはまずいので、その辺は判断が難しいところです。
○事務局　わかりました。
○国崎委員　一言、「その場所で逃げられる場所も考えておきましょう」という文章を入れておけばいいのかもしれないですね。
○事務局　わかりました。
　スペースもあるものですから、工夫してみたいと思います。ありがとうございます。
　それから、今度は１－３に行きまして、１－３－３とか１－３－４のイラストで、多くいただいたのは、家具や家電が固定されているかどうかというところ。文章に固定と書いてあるのですけれども、固定されているイラストが入っていないので、少しそこを追加するようにしたいと思います。
　レイアウトの工夫みたいなものが、いただいた御意見では幾つかありましたので、例えば１－３－３の右側のベッドのところです。頭を窓側にしないということを書いたらどうかとか、そのようなことも御意見をいただきましたので、その辺を注意してみたいと思っています。
○国崎委員　今の話で、私も頭の位置はガラスのほうにしないようにと注釈をしたほうがいいと思ったのですが、一方で、よく見たら枕の先の壁が収納になっていて、どちらが危険なのだろう。収納から物が飛び出たらということがあって、追加で扉にストッパーと入れたのです。
　ワンルームは、実際にはこういう収納があると思うのですけれども、できたら収納でないほうがいいのかもしれないと思いました。壁にしてしまう。
○池上委員長　この枕のここですね。この家具は固定式でつながっているので、私は固定の家具かと思いました。
○事務局　固定家具なのですけれども、国崎先生は、扉があいて物が倒れてきたら危険ではないかということですね。
○国崎委員　中身が飛び出してきて、頭に落ちてくる。
　なので、一応、扉にストッパーと追加では書いたのですけれども、とはいえ、頭にばんと出てきたら、どれほどのストッパーなのかわからないのですけれども。
○事務局　わかりました。絵を描けるか検討してみたいと思います。
　あと、中島委員から１－３－３について、「ベッドが倒れてこない場所に配置」というご指摘がありましたが。
○中島委員　ワンルームのところで、例えば出入り口を塞がないように固定という指摘と、ベッドに倒れてこない配置という指摘があるのですけれども、これは家電や家具は出入り口を塞がないように固定するということなのか、例えば、ベッドに倒れてこない場所に配置というのは、何を配置するときに気をつければいいことなのかということが、これだとわからないなと思います。

例えば、テレビということに限定していいのか、それともチェストなのか、家具全般なのかみたいなことを入れたほうがいいのではないか。実際にこれを見て、ワンルームの人がどのように配置しようかと考えたときに、それではどうしたらいいのかということがわからないかなと思いました。

○事務局　わかりました。

その辺は、いかがでしょうか。

○国崎委員　例えば、この棚の幅を少し短くして、ベッドを間に入れてしまうのが一番なのですね。窓からも離れているし。でも、暮らしにくいか。通路がないです。

○池上委員長　そうです。通路を塞いだ絵になってしまう。

○国崎委員　どうしたらいいのだろう。ベッドが通路を塞いでしまう。

○中島委員　ワンルームは、配置がすごく難しくて、ここにベッドを置くしかない、ここにタンスを置くしかない、ここにテレビを置くしかないと、選択肢が１か２しかないという感じだと思うのです。そのときに、例えばこの出入り口を塞がないように固定というのが、冷蔵庫と電子レンジの上のところから出ているのですけれども、これはたまたまこの配置がこうなっていますけれども、家具や家電などで出入り口を塞がないように固定しましょうという意味と考えていいのですかね。

○池上委員長　そうですね。それを入れたほうがいいですね。

○中島委員　きっとそういう意味ですね。別に家電に限らないということですね。とにかく家具とか靴箱とかは、ワンルームだとすごく少ないのですね。だから固定で置いたりするのですけれども、そのせいで玄関先がこのぐらいだったりする人も結構いたりして、多分、そういうことも想定できるということですね。廊下を入ってすぐキッチンの人はこうなっています。なので、いろいろなパターンが考えられるけれども、家電や家具などで出入り口を塞がないようにするというのがより正確な言い方で、あと、ベッドに倒れてこない場所に配置というのも、たまたまここはテレビが一番ベッドとかチェストに近いのですけれども、もしかしたら、ワンルームとかだと、これが冷蔵庫の人もいるかもしれないということですね。なので、これもテレビに限らないような気もするので、繰り返しになってうるさいかもしれないですけれども、家具や家電などはみたいに書いたほうがより正確だし、どうしたらいいのかがわかりやすいのではないかと思いました。

○事務局　わかりました。

○池上委員長　私は何も書かなかったのですけれども、その理由は、ひとり暮らしだと冷蔵庫も小さい、それからレンジも割と小さいものを選ぶだろうと。例えば倒れて移動しても、それは飛び越えられると思っているのです。だから、出入り口を塞ぐというのは、結構大型のものだと可能性はあるけれどもということで、何も書きませんでした。

むしろ倒れてこない場所に配置することも大事だし、固定をできるものは固定したほうがいいから、両方の文章が大事なのです。あとは個人で置き方とか配置とかセンスの問題ですから、これがベストだよと言い切れないところがあるので、それは自由にやってほし

いと思います。

　でも、心配な部分はあります。

○事務局　スペースもありますので、注釈のところでなるべく具体的に書けるように、工夫したいと思います。

　最後、１－６なのですけれども、食事でできる防災です。一応、イラストレーターに描いていただいているところです。お二方からは、乾パンは非常食としてどうなのかなということがありまして、ここはセリフの問題かと思っています。

　一方、国崎先生からは、左の男性の「間違っているぞ」というセリフについて間違っていないとご指摘になっている。間違っていないというのはどういうことですか。

○国崎委員　好きなものをそろえるというところはそもそも間違っていないので、どれほど甘いものを揃えるのかというところにあるのかもしれないのですけれども、ただ、食べなれているもの、好きなものをということが基本なので、実際にここら辺がどのような極端なスイーツなのかはわからないのですけれども、むしろ「間違っているぞ」とここで否定するよりは、「俺の好きなものがないぞ」とか、そのような感じの話でいいのではないか。

○池上委員長　私は、間違っているというのはそのように理解したのです。自分の好きなものが入っていないぞと。例えばお酒がないぞとか、そういうことかなぐらいに思いましたけれども、そういう誤解がないように。

○事務局　田中さんは、何が間違っているのか気になっても答えが見つからないとおっしゃっています。

○田中委員　間違っていても別にいいのですけれども、ぱっと見たときに間違っているぞと言われ、気になったのに、別に何が間違っていると解が書いてあるわけではないので、疑問で終わってしまうのがイラストとしてはミスかなと思いました。

○事務局　わかりました。

　そうすると、基本的にはここは自分の好きなものとか家族にとって必要なものをきちんと備えておきましょうということなので。

○国崎委員　例えば子供のところも、好きなおやつを入れておきましょうと書いてあるのに、大人はスイーツを入れてはいけない。だから、間違っているとは言えないので、この文章は文言だけを変えればいい問題かと思いました。

○事務局　わかりました。またイラストレーターさんにその辺の趣旨をお話ししたいと思います。

　幾つかイラストに関して、ほかにもコメントはいただいています。まだ今はラフのところもありますので、参考にさせていただければと思います。

　それ以外、全体としては書いていただいているものについてなるほどというところも、文章のところも含めてありましたので、そこはまた修正していきたいと思います。

　事務局からは以上でございます。

○池上委員長　皆様の御意見もその程度でよろしいでしょうか。

それでは、あとは事務局に原稿を御修正していただきます。

次に、巻頭企画について検討していきたいと思います。事務局からお願いします。

○田中委員　登場人物がとても多いですね。この子は誰の子供なのか、誰が誰の旦那なのかが全然わからなかったです。

○事務局　キャラクターは説明のページを設けます。

巻頭企画について御説明いたします。

最初にカラー刷りの資料をお配りしていますので、まずこちらをごらんいただければと思います。

本の巻頭に「『BOUSAI LIFE TOKYO』いますぐできる！15のこと」という企画を掲載いたします。第２回、第３回の委員会でも御説明をさせていただきましたが、防災への関心を持ってもらうきっかけとするための企画になります。ですので、暮らしの中の普段の行動の延長線で、実はこれが防災につながるといった取り組みを紹介しております。

まず、項目数ですけれども、第３回の委員会では30項目で一度御提案をいたしました。ただ、本編と何度も行き来するのが大変であるので、もう少し少なくてもいいのではないかという御意見もいただきました。また、ページ数の関係もございますので、最終的には15項目とさせていただくことにいたしました。

１枚おめくりください。こちらは今、ダミーになりますが、第３回の委員会では、本編の内容とかぶるので細かい説明までは要らないのではないかといった御意見もいただきましたので、イラストと項目名だけという形にいたします。イラストについてはハラユキさんに書いていただく予定で、本日はダミーになります。

A3の資料をごらんいただければと思います。左のページに書いておりますけれども、本日、事務局のほうで15項目を選定させていただいております。

選定の考え方ですけれども、いつもの暮らしの中でなじみやすいもので、こういうことでも防災につながるのだという気づきになるようなものを選定しております。そのため、例えばガラス飛散防止フィルムなども確かに大切だとは思うのですけれども、本の導入部分ですので、もう少し取り組みやすい対策を掲載しております。

また、物の備えにとどまらずに、コミュニケーションとか子供とのかかわりとか、なるべく幅広い防災対策を選定しております。我々事務局といたしましては、この左のページにある15項目を掲載したいと考えておりますけれども、ほかに掲載したほうがよいものがないか、きょうは委員の御意見をいただければと思います。

資料の右側に、一応その他の候補として10個、別案を掲載しております。もし御意見がありましたら、例えば左のページの４番「カーテンは閉めて寝る」を、その他の候補のＤの「メガネは枕元に置いて寝る」に入れかえたほうがいいよといった形で御意見をいただければと思います。いただいた御意見を参考に、事務局のほうで内容を決定させていただければと思います。

以上です。

○池上委員長　ありがとうございました。

それでは、５分ぐらいですけれども、まず資料に目を通していただけますでしょうか。

（資料確認）

○池上委員長　もうお目通しいただいたと思いますので、皆様から御意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

それでは、国崎さんから順番にどうぞ。

○国崎委員　そもそもなのですけれども、考え方として、例えば災害時の集合場所を決めておくとか、公衆電話の使い方を子供に教えておくということも、１回やっておしまいなのか、それともそもそも生活に防災を定着させるために生活習慣として日ごろからちょこちょこ意識してやってほしいことなのかという考え方で、選び方が変わってくると思うのです。

さらに、今すぐにできることを考えると、まず災害時の集合場所を決めておくというコミュニケーションの部分は、地域の祭りに参加してみる。これは祭りではなくて行事であったら何でもいいと思うのですけれども、地域の行事に日ごろから参加する意識、生活習慣のほうが馴染むのではないかと思ったのと、災害時のペットの預け先も重要ではあるものの、１回やったらおしまいなのねと思ってしまうので、例えば日ごろから、自宅まで歩いて帰る道をチェックする。そこは危険があるかないかというチェックにもなりますし、自分は体力面でどうなのかとか、いろいろ思うところもあると思うので、毎日意識してもらいたいことというところでＢになるのかなと思いました。

あと、15なのですけれども「東京くらし防災」を読んでみるというのも、１回読んでみるというイメージに捉えられるので、「東京くらし防災」を小まめにチェックするなどという文言に変えてもいいのかなと思いました。

それから、これは考え方とは違うのですが、チョコやキャラメルと限定しなくても、ほかの文言でもいいのかなとも感じます。

あと、私自身がやっていないことを入れるのが嫌だなということがあって、今もそうなのですけれども、大判ストールはほとんど持ち歩かないのです。ほかの委員が毎日持ち歩いているということならばそれでいいとは思うのですけれども、ストールは活躍するよという意味ではいいとは思うのですが、今すぐ、毎日の習慣の中で、夏に本当に持つのかと考えると、これが現実的なのだろうかと考えると、例えばＣのとにかく割れない素材を日ごろから買い物の中で、ちょっと何かを買うときにでも意識するということでＣにしたほうがいいのではないかと思いました。

以上です。

○池上委員長　それでは、田中さん。

○田中委員　今、もう既に出ているもの以外で行くと、私は12番と14番のママバッグとペットの預け先に関しては、大まかに女性というジャンルの中でママである人、ペットを飼

っている人というマイノリティーの情報だけを入れるのではなくて、ここに関しては誰しもがかかわるものだけに限定したほうがいいのではないかと思いました。なので、特に私はママでもないしペットも飼っていないので、既に15個のうち２つが該当しないので、もったいないなと思いました。

それであれば、先ほど伺ったようにＣの小物は割れない素材を選ぶだとか、重いものは棚の上段に置かないとか、ハザードマップ、自宅のブレーカーなどの、もうすぐにできて誰でもやるべきものを入れたほうがいいのではないかと思いました。

以上です。

○池上委員長　ありがとうございました。

冨川さん、いかがでしょうか。

○冨川委員　私も田中さんと同じで、ママの情報、ペットの情報、その他の候補に入っているのですけれども眼鏡の情報は該当しない人がいるので、ここは特に違ってもいいのかなと思うのですけれども、ただ、女性向けと出したときに、子供がいる人も多数いたりするので、そこは難しいなと。あと、御高齢の方が入ってきてしまうので、特になくてもいいのかなと私は思っています。

具体的になのですけれども、「スマホやケータイは常に充電しておく」、これは要るのではないかと思います。私が思ったのはそこです。

○池上委員長　ありがとうございました。

中島さん、いかがでしょうか。

○中島委員　私は皆さんとはお出しする意見の質が違ってしまうのであれなのですけれども、７番のポリ袋を多目に買い置きするというのは、ポリ袋に限っていないのかなと思います。中の原稿を拝見したら、ポリ袋ではなくて生活用品全般、消耗品のことを言っていた。なので、ポリ袋ではなくていいのではないか。消耗品なのか生活用品なのかということ。

あと、導入文にどういうものが来るかによると思うのですけれども、女性向けの暮らしの本なのだみたいな話をするのであれば、生理用品、本当は７番と８番はある意味一緒なのですね。「生理用品は、もう１周期分買っておく」というのは、ある意味一緒のことだと思うのです。なのですけれども、生理用品は女性にとって結構、死活問題のものであるのですが、消耗品を多く買っておくことも大事なことでもあるので、別立てにして生理用品というのがあると女性らしさというか､この本の趣旨が伝わりやすいのかなと思うので、あえて立ててもいいのかなと。

その意味では、私はママバッグとかのことも、自分に該当しないものが15個全部のうちなくてもいいかなという気がするのです。私も子供はいないし、ママバッグとかも全然持っていないのですけれども、こういうものなのかということがわかりやすくなるという意味では、ありなのかなと私は思いました。

でも、そこはもっと全員に共通するものにするというのも一つの意見だと思うので、例

えばフラットシューズでもいいし、自宅まで帰れる道をチェックするでもいいし、そこは全然構わないと思うのですけれども、一つの視点として、わかりやすくはなる。ここを全部抜いていくと、余り女性っぽくなくなっていくのではないかという気がします。女性らしさみたいなことを考えるのであれば、一つあってもいいのではないかと思います。

以上です。

○池上委員長　ありがとうございました。

それでは、私の意見です。ほぼ皆様と共通していることが多いのですが、６番に「食器の重ね方を変えてみる」とありますね。これももちろん大事なのですけれども、それよりはＥの「重いものは、棚の上段に置かない」というところをびしっとやっておいて、そこに附属するものとして、食器の重ね方も入るのかなとも思って、そこを入れかえたらいいかなと思ったぐらいで、あとは皆さんがおっしゃったように、ポリ袋と限定しないとか、チョコやキャラメルを持ち歩くというのは実は大分前の島田危機管理監が発案した地震後の10のポイントの中に、チョコやキャラメルを備えておこうとあるのです。多分、これはそこからとっていらっしゃると思うのですが、何でもいいということなので、一応、手軽なものを持ち歩いていたほうがいいですよということなので､その辺はお任せいたします。

あとは、先ほどどなたかがおっしゃっていましたけれども、公衆電話のところも、災害用伝言ダイヤルの使い方を覚えておくというのは、一般的に家族だけではなくて、事業所等に勤務している人の家族とか、幼稚園と保護者とか、いろいろなところで活用されるので、この辺のほうを先に15のポイントの中に入れたほうがいいのではないかと私は思いました。

重複しますが、先ほど地域の祭りに参加してみるというほうが、コミュニケーションがとれて顔の見える関係ができるので、これを優先したほうがいいかなと思った次第です。

以上です。

○事務局　ありがとうございます。

○国崎委員　皆様の意見を聞いて、12番のママバッグを入れるか入れないかなのですけれども、よく考えたら、「ママバッグは使ったらすぐに補充しておく」というのは意味がよくわからない。ママバッグの中身ですね。

○池上委員長　中身です。

○国崎委員　でも、ここら辺はそんなに細かく言ったらつまらないので、ここはどういう意味なのだろうと中に誘導するものなのか、ただ、わからない人から見ると、ママバッグは使い捨てなのかどうかとか、何か下手な誤解を与えてしまうのか、そこら辺はキャッチーにするのか、それとも、しっかり伝えていくのかというところはあろうかと思います。

以上です。

○事務局　ありがとうございます。

○池上委員長　その後、１－10を読んでほしいのですね。そこに導入するというように。

○事務局　基本的には、なるべくどのような方でもというのが基本の考え方ではあるので

すけれども、ただ、あくまで女性視点で考えてつくった防災ブックでありますので、例えば８番とか12番もとか、そういう視点から必要であれば載せていきたいなというところもあります。ここはまた改めて考えさせていただきます。

あと、国崎先生がおっしゃるように、わかりづらいものについては修正をしていくという考え方でやりたいと思います。

○池上委員長　ありがとうございました。

それでは、次の検討に入りたいと思います。

次は、本の導入の文章について、皆様から御意見をいただきたいと思っております。

本を開いた最初のページに導入文を載せたいと思っています。これは東京都から読者の方へのメッセージということで、本の狙いを訴えるものと考えています。

内容の趣旨を御説明いたしますと、まずは委員の皆様からこれまでも、命を守ることが大事だということをお話しいただいていますので、そのことを初めに伝えています。また、何をすべきかわからない、面倒くさいと思っている多くの人に防災を始めてほしくてつくったものであるということを伝えています。

第３回の委員会でも御紹介した都の実施したアンケートを活用したものになります。また、ちょっと多目に買い足すといった行動、実は読者の方が日々の暮らしの中で普段やっていることが防災につながるのだといったことを伝えております。暮らしの中でのちょっとした工夫が防災につながるということを伝えて、そのような工夫から取り組んで欲しいという内容にしております。

本日、細かい文章表現というよりは、例えばもっと災害の恐ろしさを伝えたほうがいいのではないかといったような、こういう視点、こういう内容をもっと取り入れたほうがいいよということがもしございましたら、皆さんに御意見をいただければと思います。いただいた御意見を参考に、事務局のほうで内容を決定してまいりたいと思います。

以上です。

○池上委員長　ありがとうございました。

それでは、お願いします。

○国崎委員　とてもいいと思います。私はこのままでいいのではないかと思いました。

○池上委員長　ありがとうございました。

中島さん、お読みになりましたか。

○中島委員　はい。読みました。

私も方向性としてばっちりだと思うのですけれども、一つ大前提として、女性目線のことを盛り込んでいますよということは全く触れない。

○池上委員長　女性の視点ですね。

○中島委員　わざと触れていないのかなとも思ったのです。というのも、女性がどうこうみたいなことではなくて、多分、暮らしというものに女性のほうが感度が高いというか、感性が高いということであってという話だとは思うのですけれども、明らかにイラストの

方向性とか本の感じとかは女性のことも入っているので、そこがちょっとぶれるというか、分かりづらくなるのかなとも思ったのです。
○事務局　この前の委員会の中でも池上委員長からもいろいろ御意見をいただいたりしていますけれども、女性だけを対象にした本ではないというところがありますので、男女問わず皆さんに読んでいただきたいと考えております
○中島委員　その意図があるのであれば、もうこの方向でやって、より女性に手にとってもらいやすいというか、中身を読めばそちらの視点が入っているという形でいいのではないかと思います。
○池上委員長　どうぞ。
○田中委員　方向性としてはいいなと思いつつも、わざと逆の意見をお伝えしようと思うと、もともとこのブック自体の対象が意識の低い層だったり、まだやっていない層なのであれば、この文章は結構つらくて、東京都側の意見とか思いを伝えるだけ伝えられて、こちらのことを全然気にしてくれていないのだなということが伝わる文章だなと思いました。
　アンケートの結果はこうだから、あなたたちはできないのでしょうと初めの段落では言っていて、それは決して難しいことではないのだよとあなたたちは思っているかもしれないけれども、私は難しいともう思っていますと感じるし、暮らしは立派な防災になるのですと言われるけれども、立派な防災をしたくてこの本を読んでいるわけではなくて、気軽に毎日の暮らしの中でやりたいのになと思うという、一般人目線ですけれども、全体的に本当にハードルが高い文章をどんと送られたみたいな感じがしました。面倒くさくて何をすべきかわからないですよねとか、ちゃんと意見を吸いとった上でこれをつくったのですよと優しく包んでくれる文章だったらいいなと思いました。
　以上です。
○池上委員長　面倒くさいですねと。わかりました。
　冨川さんはいかがでしょうか。
○冨川委員　私も導入文としてはいいのではないかと思うのですけれども、一つ気がかりというか気になるのが、命を守ることは一番大事なのですけれども、この内容は、命が守られた後の暮らしが大変なのだよというところまで含めて言いながら、私たちもずっと検討してきていると思うので、命を救った、命が守られた後の暮らしも大事にしたいという思いがもうちょっと入るといいかなと思っています。
○池上委員長　私はこのままでいいと思った１人なのですが、田中さんの御意見もなるほどと思ったり、その辺がもう少し、この文章もハードルを低くできたらもっといいかなと聞いていて思いました。
○事務局　ありがとうございます。
○池上委員長　一応、一気に言っていただきましたけれども、皆様の御意見を聞いていかがですか。少し文章としてハードルが高いというところで。
○国崎委員　私は田中さんの意見を聞いて、それを文章にするとしたらどうなのかなと考

えたときに、いろいろな面倒くさいという意見を吸い上げるというところからこうなったのですよという最後の意見は、やはりこれなのではないかと思ったりとか、アンケートでそういった意見があったのですよと。それに対して、私たちはこのような視点で考えましたというほうにこの文言はなっているのではないかと思って、具体的にどのような文章なのだろうと気になったのです。優しく包んでいるような気がしないでもないのですけれども、どうなのだろう。

○池上委員長　ハードルを低くしたところから文章が入っているというようなことが、ここで言えたらいいのでしょうか。

○田中委員　そうですね。結構、こちらの気持ちをわかっていないラブレターが届いている感じがする。教えたがっているというのがすごく伝わる。

もちろん、大事なのももうわかっているし、一番大切なのは命を守ることなのもわかっているけれども結構、はい、勉強しますと肩を張ってしまうような文章だなと思いました。

○池上委員長　教えたがっていることは確かです。私たちはそういう仕事をしているので、どうしてもそういう頭になってしまうので、逆にそういう御意見がすごく大事だと思っていることもあるし、ハードルが高いというのかな。それを踏まえて、最初はハードルを低くということで、今すぐできる15のことというところから始めているので、一応、配慮したつもりではいるのですけれども、なかなか難しいですが、でも大事なことですから、事務局のほうに御配慮いただいてというところです。

○事務局　ありがとうございます。

「東京防災」の導入では、何をしよう、やろうという文章なものですから、それよりはなるべく、余り上から目線っぽくならないようにはしたいなと思ってこういった文章にさせていただいたところです。

また、本日の議論を踏まえて、改めて考えてみたいと思います。

○池上委員長　気持ちはわかるのですけれども、多くの人が災害の対策をできずにいて、そのような人に防災を始めてほしくてというところが、こちらの願いはこの辺なのですが、ここがまたひっかかるところなのでしょうか。無理やり、やって、みたいな。なるほど。

○中島委員　これは最初の段落の３ライン目から５ライン目の文章を少しいじるだけで、そこは多分、若干解決できることだと思います。お二人の意見はもちろんそうで、このような細かいことをこの場で言う話でも余りないのかもしれないのですけれども、方向性として言いたいことの中身はこれでいいのだと思うのです。皆さん、いいというお話ですね。でも、田中さんのおっしゃっていることは、そこを多分、ここのラインが突き放しているように見えるというのが一番大きいのかなという気がするのです。

なので例えば、ですがみたいなことですね。何か行動していますか。ここもちょっと考えなければいけないのかもしれないのですけれども、大事だとはわかっているけれども、実際できないものですねという話に落とし込めれば、多分、そこはわかってくれているのだという話になるということですね。なので、ここの最初の段落のところで、アンケート

でこういうものができたということは、本当にそうなのだよ、面倒くさいのだよねということ、わからないし難しいのだよねということが、ここの文章をいじるだけで伝われば、それで大分変わってくるのかなと思います。
○池上委員長　気づかずに対策につながっていることもたくさんあるわけで、ここで指摘してあげて、そうか、これもつながっているのだと。
○中島委員　それは、いつの間にかやれていることもあるのだよみたいなことが、もしかしたら結びに入るということかもしれないですし、今、池上先生がおっしゃったように、自分が気づいていないところでもうできていることもあるかもしれないとか。でも、これは防災とは言えないかもしれないですけれども、意識しないとみたいなことが入ってくると、すごく平たい言い方ですけれども、きっと共感ということですね。そこがもうちょっと、言葉尻をいじるだけで大分変わってくると思います。
　全体の原稿のテイストとして、すごくわかりやすく、ある意味で格調高くという感じでつくっていらっしゃるのだと思うのですけれども、そこを入れると大分いいのではないかと思いました。
○国崎委員　今、御指摘の立派な防災は、これだけで立派な防災にはならないのです。ただ、安全な暮らしになるとか。
○中島委員　防災の始まりみたいなことだったりとか、本当に草の根の一つですということですね。第一歩ですと。
○事務局　わかりました。
○池上委員長　ちょっとここから外れるかもしれませんが、きょうのイラストで気になったのが、アロマテラピーが出てきましたね。ベッドの横に置いていて。あれがはやりだしたころは、普段の生活の中で、あれで結構火災が起きているのです。カーテンのひらひらが火災につながったとか。あれの絵が、あのようにやっている人がまだまだ多いのですかね。写真立てがあって、無理にここのそばにアロマがあって、ここに額があってみたいなことで、ちょっとあの絵が気になりました。
○事務局　あれは、どちらかというとわざとそうして、それでだめだよというものだと思います。
○池上委員長　だめよという意味ですね。それはわかるのですけれども、このような生活をしていいのだみたいに思ってしまったら、ちょっと怖いなと思いました。
　そのようなところでしょうか。いいですか。
○田中委員　はい。
○池上委員長　それでは、以上です。
○事務局　ありがとうございます。
　本日はいろいろ御意見をいただきましたので、また事務局で取りまとめて、原稿に反映させていただきたいと思います。
　また、この会はいろいろ委員の皆様にも個別に御相談等をさせていただく場合がありま

すので、どうぞよろしくお願いします。
○池上委員長　済みません、１点ございました。
　国崎さんのほうからどうぞ。
○国崎委員　１－１－４で、実は全委員がシミュレーションポイントのところにはメモをつけていないということなのですけれども、例えばここでできる限りいろいろな道を考えておくという理由の中に、危険な場所もあるというところがあるわけですね。道路とか橋の問題もあるので、体力面だけではなくて、安全な道を選ぶという部分の文言がそもそも必要なのではないか。
○池上委員長　それから、中島さんがこの件でおっしゃってくれたイラストに矢印をつけるというのも、何方向もあって、その中で安全な道を選ぶのだよと。ただ書いてあるだけでは、何となくわかりにくいのです。よくよく見ると右下がどうも自宅らしいとか。
○国崎委員　もしかしたらマンションに住んでいるかもしれない。
○事務局　ありがとうございます。
○中島委員　例えば、矢印がここからおうちに行くのに３通り分の矢印が引いてあるとかになると、同じ出発点だけれども、３通りの行き方があるのだ、それをやっておこうみたいなことが、よりイラストとしてわかりやすくなるのではと思いました。
○事務局　ありがとうございます。
○池上委員長　それから、今、配られました次回の委員会ですが、11月27日の月曜日、９時半からですので、お間違えのないようによろしくお願いいたします。ちょっと朝がきついですけれども、よろしくお願いいたします。
　それでは、これをもって閉会にさせていただきます。12時前です。ありがとうございました。また次回、どうぞよろしくお願いいたします。
午前12時00分閉会